

ほ ど 教育センター通信

火床の火の心を紡ぐ

第6号（通算 100号）
令和4年 10月 27日
三条市教育委員会
教育センター 発行



以前校長会議で話したことについての追考

教育センター指導主事 井口 浩

7月と8月に校長会議で「学力状況と対策」という議題でお話ししました。8月の内容は全国学力・学習状況調査の三条市の結果について分析・考察したことでした。この機会に8月の内容について、その背景や根本から改めて考えてみたいと思います。

全国学力・学習状況調査の目的には、「学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる」ことがあります。そのためには、数値結果よりも、それが示唆する意味をどのように捉えるかが必要です。各学校においては、全国学力・学習状況調査結果分析研修を終えたことと思います。全国平均よりも上回ったとか下回ったとかという表面的な解釈で終わらず、学習状況及び指導状況といった背景要因を分析して、授業改善に取り組んでいくことが重要です。

周知のとおり、調査問題は、「何が分かったか」（知識・技能）だけでなく、「何ができるようになったか」（思考力・判断力・表現力等）も対象としています。後者について全国学力・学習状況調査の結果から全国的に指摘されている不十分な点として、事実・データと解釈を明確にしたり、解決方法として用いるものと用い方を明確にしたりして、自分が考えたことを説明する力が挙げられます。このような力を子どもが身に付けるためには、調査問題で求められている活動を、日ごろの授業の中に位置付けて、子どもが経験する機会を繰り返す必要があることです。学力向上には、このような学力保証の視点が必要ということです。このことは、教育センターの研修（例えば学習指導要領理解研修や算数・数学指導力向上研修等）や「三条市授業スタンダード」（特に「対話」「まとめ」）でもお伝えしてきました。改めて、以上の視点から自校や自身の授業を振り返り、子どもも教師も手応えのある授業をつくっていくことを期待します。

学 園 紹 介

三条嵐南学園

嵐南小学校運動会：第一中学校「おたすけ隊」

10月に実施した嵐南小学校運動会では、第一中学校生徒の有志によるボランティア、通称「おたすけ隊」が大活躍しました。道具の準備や片付け、徒競走の決勝審判補助など、小学生の競技がスムーズに進むように陰ながら力を発揮していました。

これまで、「おたすけ隊」の姿を見ながら運動会に参加していた子どもたちが、中学生になって今度は小学生を助けています。小中連携「おたすけ隊」のバトンが受け継がれる三条嵐南学園です。

可愛らしい姿で観客を沸かせていた小学校1、2年生も、やがて頼もしい「おたすけ隊」として後輩を支える日が来るのが楽しみです。



四つ葉学園

四つ葉学園陸上記録会(3小学校)



9月15日(木)、秋晴れの空のもと、学園の3小学校(井栗、旭、保内)が三条・燕総合グラウンドに集まり、四つ葉学園陸上記録会が実施されました。

全天候型の競技場ということもあり、土のグラウンドとは違う感触に、子どもたちはやや戸惑いながらも、競技場の広さと雰囲気にも気持ちが高まっている様子でした。

子どもたちは男女100m、男子1500m、女子800mの中から、自分が希望する種目に挑戦しました。また、各校の選抜メンバーが4×100mリレーに参加しました。



仲間からの声援を受けながら、広いグラウンドを思い切り駆け抜けた子どもたち。次々と生まれる自己新記録に驚いたり、喜んだりと様々な表情が見られました。また、競技中の仲間を応援する姿も見られました。

全力を尽くそうとして、勢い余って転倒する場面があった時には、ゴール後に、他校の子どもたちが心配して集まってきました。幸い、けがはありませんでした。学校を超えて他者のことを心配する姿からは、小小交流を積み重ね、子どもたちの中に仲間意識が育まれていることが伺えました。競い合い、互いを認め合い、称え合う1日となりました。

科学教育推進事業

子どもに科学する心を育むことをねらいとした三条市科学教育推進事業では、次の四つの事業を行っています。

一つ目は、「子どもの科学教室」です。小学校5、6年生を対象に、物理、化学、生物、地学と星空の五つの教室を開催しています。

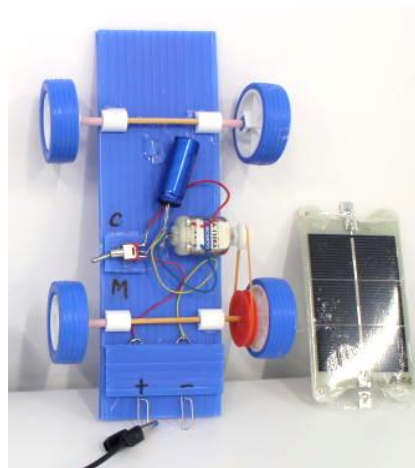
二つ目は、小中学生、一般を対象とした「わくわく科学フェスティバル」です。今年度は、8月18日(木)に、三条市体育文化会館で行いました。

三つ目は、中学生を対象とした講演会形式の「科学ゼミナール」です。毎年、3中学校を対象に実施しています。今年度は、JAXA職員に講師を依頼しています。

四つ目の「科学模型工作教室」は、小学校5、6年生を対象に、年6回開催し、「ピタゴラスイッチ」などを製作します。1年間を通して、6回全てに参加する児童が申込みをします。令和4年度は、三条市内32人の児童が申し込みました。また、毎回、とても多くの市内の学校の先生方から支援していただいています。10月に行った「第3回模型工作教室」では、はんだ付けなどの手伝いの高校生も参加し、42人での教室でした。

第3回模型工作教室は、「乾電池と太陽電池で動くEV車」を作りました。見本の車を参考にしながら、自分なりのオリジナル車を作ったり、飾り付けをしたりしました。また、作ったもので楽しそうに遊んでいました。

「太陽光で車を走らせる仕組みが、とても面白かった。家でもたくさん遊びたい。」「太陽電池と単2の乾電池、どちらも充電できるとは思わなかった。雨の日も晴れの日も遊べて一石二鳥で、とても楽しい。」「カッターで切ったり、グルーガンで張り付けたりして楽しかった。」などの感想からも、夢中になって製作したり、遊んだりしたことが伺われました。



EV車



第3回模型工作教室の様子

トイドローンの寄贈と貸出しについて



本体・コントローラー・充電器・説明書をセットで貸し出します。

学校で用意する物品等はなく、すぐに使用することができます。

先日、「つばさ税理士法人」様から、教育委員会に「小型のトイドローン 100 機」を寄贈いただきました。

カメラ機能はありませんが、操作は大変簡単で、小学校・義務教育学校の低学年の子どもでもすぐに楽しむことができます。今後、貸出しの準備が整い次第、改めて貸出方法等を連絡します。

ぜひ、各学校で、学級活動、クラブ活動や様々な場面で御活用ください。

道徳科授業研修

9月28日（水） 教育センターホール

本研修は新潟青陵大学教授 中野 啓明 様 を講師にお迎えして開催しました。市内の多くの学校から参加いただいたことに感謝いたします。ICT の活用により子どもの意見が瞬時に分かることや記録を蓄積すること（学習ログ）が有効であることを、実際の活用場面をもとに説明していただきました。また、具体的な実践から得た知見についても触れていただくなど、子どもの学びの視点からデジタルとアナログのよさを改めて考える機会となりました。

受講者の感想（一部抜粋）

グループワークで活発な話し合いが行われていると思いつつも、一言一句を聞き取れるわけではありません。しかし、ICT の活用により、話し合いの内容が視覚化されることで、教師の見取りの助けや子どもたち自身の深い学びに繋がると思います。今後授業で取り入れていきたいと思えます。